

○ 課題の設定

- ・ T1 「相手の気持ちや考えを、お互いに大切にしながら、野外炊飯の役割分担を話し合いをしながらやってみよう。」
(全員にうなずきがみられ、実際の場面の強化に役立てる。)

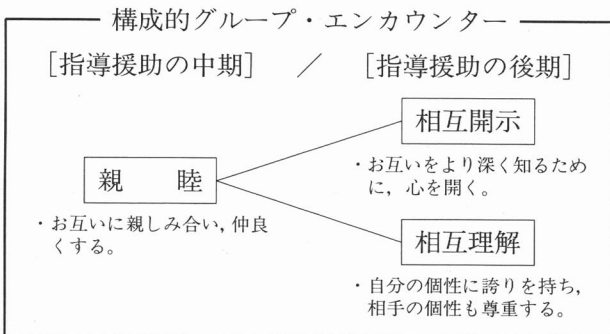
(イ) グループ・エンカウンター

集団内にある程度の信頼関係ができた段階に、遊戯的活動の一環として構成的グループ・エンカウンターを取り入れる。仲間と楽しさを共有しながら、自己理解、他者理解を深め、対人関係に未熟な不登校児童生徒が、心の触れ合いの体験を通して、人間関係づくりを行う。

対象児童生徒は、5名程度の小人数とし、取り上げるエクササイズや時間等、準備を入念に行い、計画的、継続的に進めていく。

〈指導援助計画の構想〉

指導援助の中期頃には、児童生徒相互の親睦を、指導援助の後期頃には、相互開示・相互理解を主な目的として、エクササイズを選定する。



〈活動の流れ〉

指導援助の活動の流れを次のようにする。

導 入	・ 和やかな雰囲気をつくるために、ウォーミングアップを行う。
展 開	・ エクササイズのねらいを説明し、実施する。
まとめ	・ 終了後、体験を通して感じたこと等を話し合い、振り返りをする。

〈指導援助の実践例〉

- 親睦 (お互いに親しみ合い、仲良くする)

実践例 1

導 入	「じゃんけんおんぶ」 ・ じゃんけんし、負けた人が勝った人を背負う。
展 開	「私を支えて」 ・ 二人組になり、前の人は目を閉じたまま後に倒れ、後ろの人は前に戻す。
まとめ	振り返りをする。

実践例 2

導 入	「瞬間接着剤」 ・ 二人組になり、リーダーの指示によりお互いの手と手、足と足をつける。
展 開	「フルーツバスケット」 ・ リーダーが言うことに該当する人が席を替わる。座れなかった人が次のリーダーになる。
まとめ	振り返りをする。

- 相互開示 (お互いをより深く知るために、心を開く)

実践例

導 入	「これ、何かな」 ・ 紙にかかれた絵を見て、それが何に見えるか想像して、発表する。
展 開	「ジェスチャー遊び」 ・ 動物やスポーツ等の動作を表現して、それを当てていく。
まとめ	振り返りをする。

- 相互理解 (自分の個性に誇りを持ち、相手の個性も尊重する)

実践例

導 入	「私はわたしよ」 ・ 自分の個性と思われることを3つ書き、後でリーダーが読みあげ、誰のことかを当てる。
展 開	「Xさんからの手紙」 ・ 受け取った用紙に、宛名の人の良いところを見つけて書き、回収した後で、宛名の人に渡す。
まとめ	振り返りをする。

(ウ) グループ・カウンセリング

お互い同士の信頼関係が確立し、自由な発言が尊重される状態の中で、不登校という共通の悩みを持つ仲間が指導援助者と一体になって、言語的コミュニケーションを行う。そして、不安で苦しい気持ちを語ったり、悩みに対する対応を聴いたりする、集団内の相互作用により、様々な見方や考え方があることに気づくことで、自己理解・他者理解を深め、